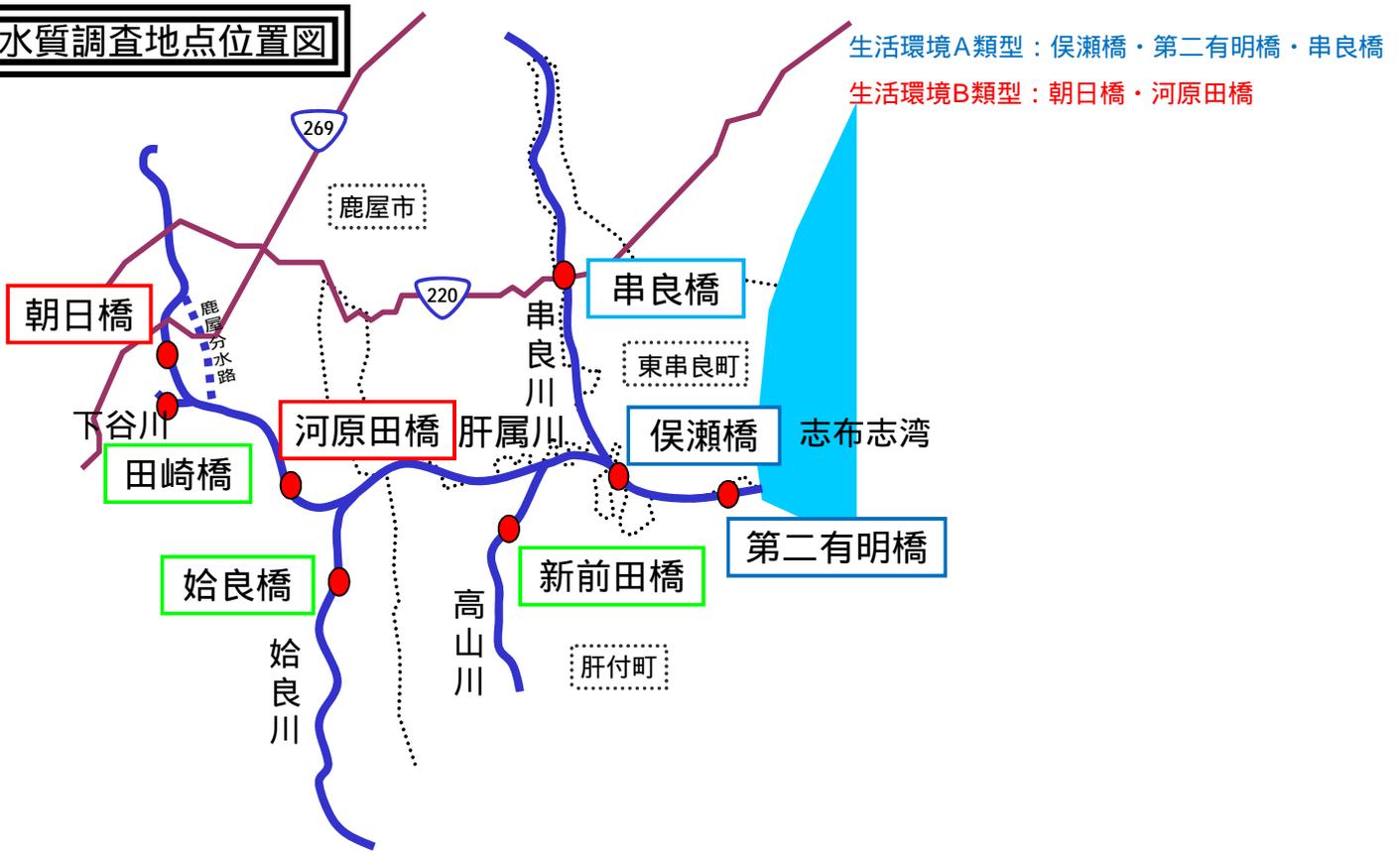


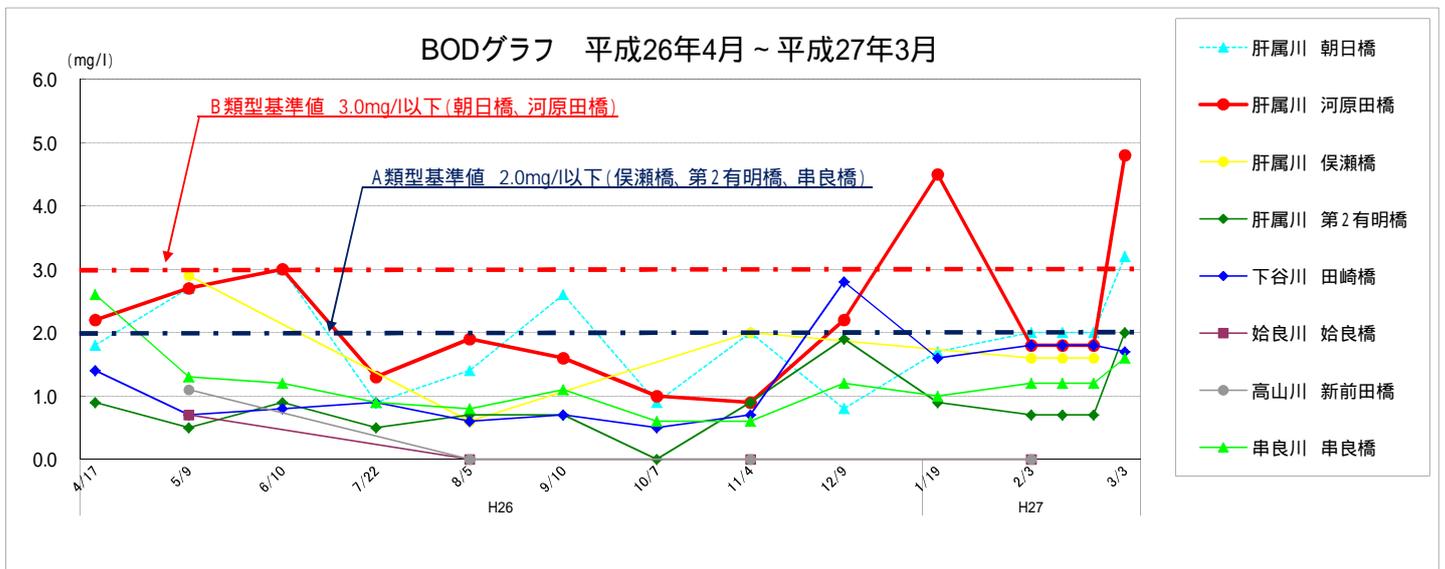
平成26年4月～平成27年3月の肝属川水系の水質速報

水質調査地点位置図



BOD(生物化学的酸素要求量)

水中の分解されやすい有機物が、好気性微生物によって酸化分解される時に消費される酸素の量で、通常20℃で5日間暗所で培養したときの水中の酸素の消費量をさします。水中で酸素を消費する物質は主に有機物ですから、有機汚濁の指標として古くから用いられていますが、微生物によって分解されにくい有機物や、毒物による汚染を伴う場合は測定できません。BODが高いということは水中の酸素が欠乏しやすいということを意味し、BODが10mg/l以上では、悪臭の発生などの障害が現れ始めます。水産用水としては、ヤマメ、イワナ等の清水性魚類ではBODが2mg/l以下、アユ、サケなどは3mg/l以下、比較的汚濁に強いコイ、フナ類でも5mg/l以下が適当とされています。(生活環境A類型:俣瀬橋、第2有明橋、串良橋 生活環境B類型:朝日橋、河原田橋)

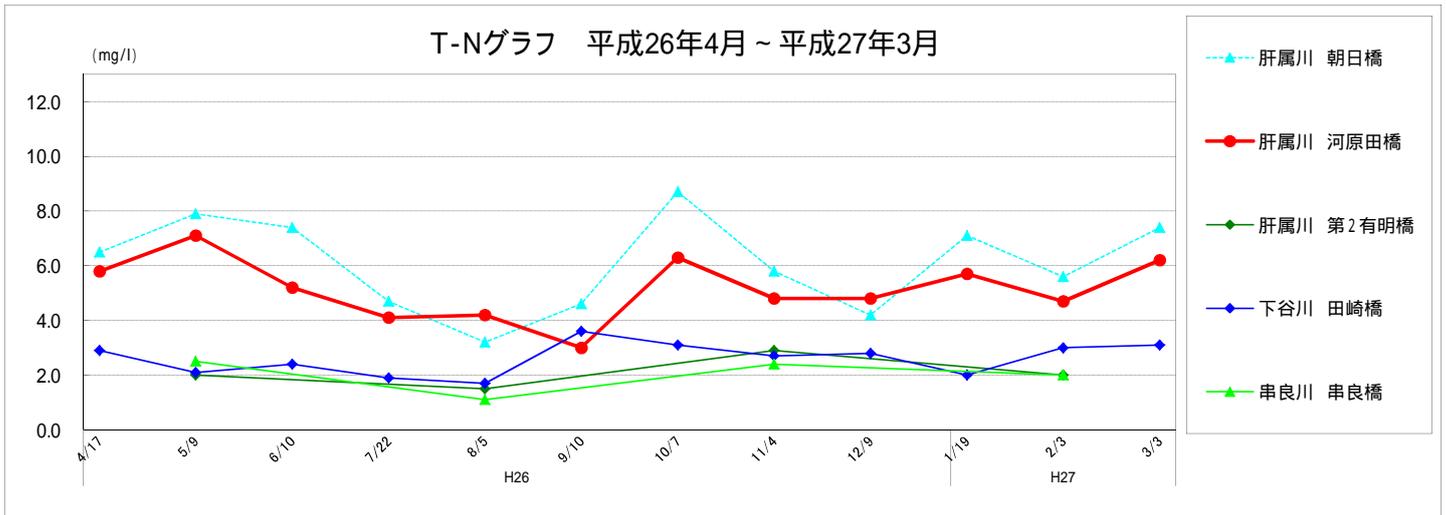


BOD測定結果

	H26									H27		
	4/17	5/9	6/10	7/22	8/5	9/10	10/7	11/4	12/9	1/19	2/3	3/3
肝属川 朝日橋	1.8	2.7	3.0	0.9	1.4	2.6	0.9	2.0	0.8	1.7	2.0	3.2
肝属川 河原田橋	2.2	2.7	3.0	1.3	1.9	1.6	1.0	0.9	2.2	4.5	1.8	4.8
肝属川 俣瀬橋		2.9			0.6			2.0			1.6	
肝属川 第2有明橋	0.9	0.5	0.9	0.5	0.7	0.7	<0.5	0.9	1.9	0.9	0.7	2.0
下谷川 田崎橋	1.4	0.7	0.8	0.9	0.6	0.7	0.5	0.7	2.8	1.6	1.8	1.7
始良川 始良橋		0.7			<0.5			<0.5			<0.5	
高山川 新前田橋		1.1			<0.5			<0.5			<0.5	
串良川 串良橋	2.6	1.3	1.2	0.9	0.8	1.1	0.6	0.6	1.2	1.0	1.2	1.6

T-N(総窒素)

T-N(総窒素)は、し尿や家庭下水中の有機物の分解や工場排水に起因する水質汚染の有力な指標となる各形態の窒素をあわせたものです。富栄養化の指標としては、このT-N(総窒素)がもっともよく使われます。生活環境の保全に関する環境基準においては、河川水のT-N環境基準は定められていません。しかし河川よりも閉鎖的な湖沼においては、環境保全のためには総窒素は1mg/l以下でなければならないとされています。この点を考えると、特に肝属川上流部のT-Nは高濃度であり、更なる改善努力が必要と言えます。



T-N(総窒素)測定結果

	H26									H27		
	4/17	5/9	6/10	7/22	8/5	9/10	10/7	11/4	12/9	1/19	2/3	3/3
肝属川 朝日橋	6.5	7.9	7.4	4.7	3.2	4.6	8.7	5.8	4.2	7.1	5.6	7.4
肝属川 河原田橋	5.8	7.1	5.2	4.1	4.2	3.0	6.3	4.8	4.8	5.7	4.7	6.2
肝属川 第2有明橋		2.0			1.5			2.9			2.0	
下谷川 田崎橋	2.9	2.1	2.4	1.9	1.7	3.6	3.1	2.7	2.8	2.0	3.0	3.1
串良川 串良橋		2.5			1.1			2.4			2.0	